

IV 学習活動

大人には、学習指導の重点のおき方や望まれる教育内容、子どもには自身の学習観を聞くことで、現在の学校教育におけるニーズを把握することにした。

調査の結果、学校での学習指導の重点については、教員、保護者、学校評議員のいずれにおいても、「自ら考える力や表現する力」を身につけること、「基礎・基本の学習」「集団の中で互いに学び合うこと」に重点をおいた方がよいと考えている割合が高い。

具体的に見ると、「力を入れてほしい教育内容」では、保護者と学校評議員全体で7割が「国語教育」と回答している。

また、子どもは「勉強する理由」について、自身の将来や進路のためと考えている割合が高い。

IV-1 学習指導の重点

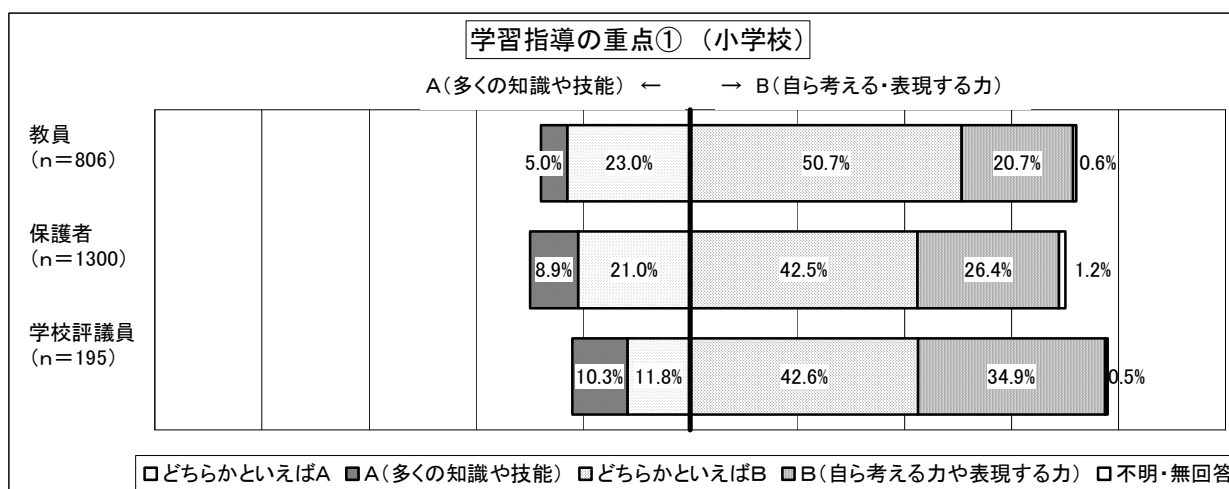
現在の学校教育において、学習指導の重点をどこにおいた方がよいと考えているか、教員、保護者、学校評議員に聞いたところ、全体的な傾向として、「自ら考える力や表現する力を身につけること」、「基礎・基本の学習を行うこと」と回答している割合が高い。また、学習形態については、「集団の中で互いに学び合うこと」に重点をおいた方がよいと回答している割合が高い。

その一方で、子どもの発達や個に応じた指導の観点から、小中高と学校段階が上がるにつれ、「多くの知識や技能の習得に向けた学習指導」や、「進度に応じて個別に学ぶ学習形態」に重点をおいた方がよいとする回答が増加している。

IV-1 学習指導の重点 ①「多くの知識や技能」か「自ら考える力・表現する力」か
【小学校】

教員、保護者、学校評議員に、A「暗記や反復学習などにより、多くの知識や技能を身につける」とB「自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける」のどちらに学習指導の重点をおくかを聞いたところ、「Bである」「どちらかというともB」（教員 71.4%、保護者 68.9%、学校評議員 77.5%）が三者共に高い割合となっている。（図IV-1-1参照）

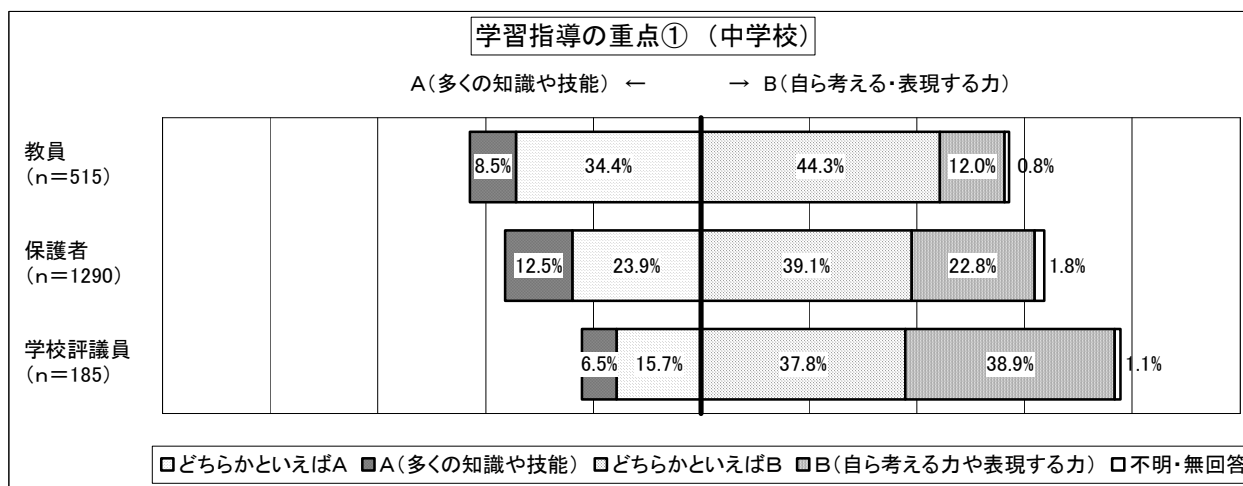
図IV-1-1



【中学校】

①について、教員、保護者、学校評議員に聞いたところでも、「Bである」「どちらかというともB」（教員 56.3%、保護者 61.9%、学校評議員 76.7%）が三者共に高い割合となっている。（図IV-1-2参照）

図IV-1-2

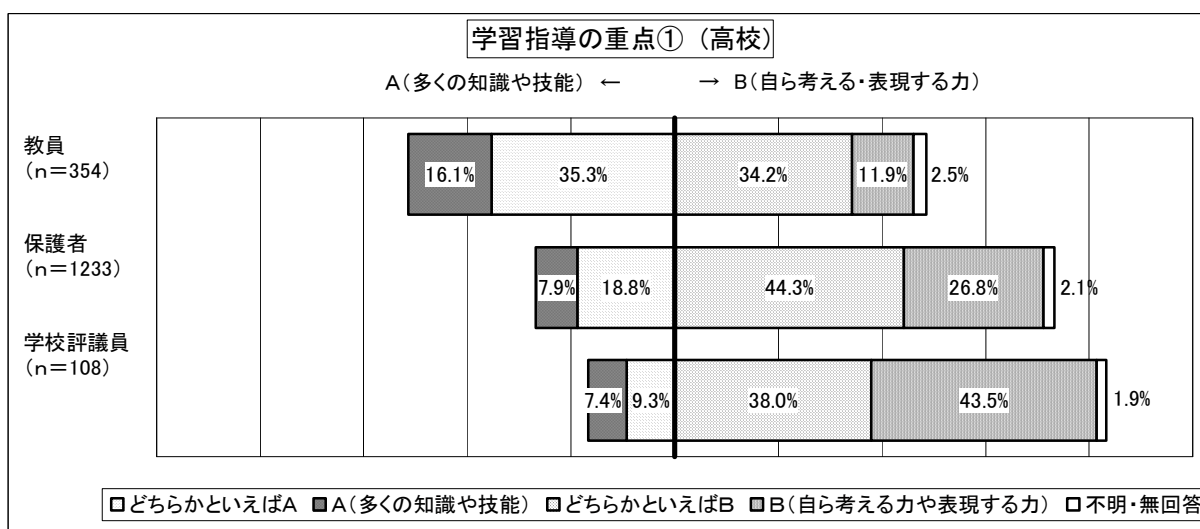


【高校】

①について、教員、保護者、学校評議員に聞いたところでは、教員では、「Aである」「どちらかというA」（教員 51.4%）が、「Bである」「どちらかというB」（教員 46.1%）より若干上回っているが、保護者・学校評議員に関しては小中と同様に、「Bである」「どちらかというB」（保護者 71.1%、学校評議員 81.5%）が両者共に高い割合となっている。

（図IV-1-3参照）

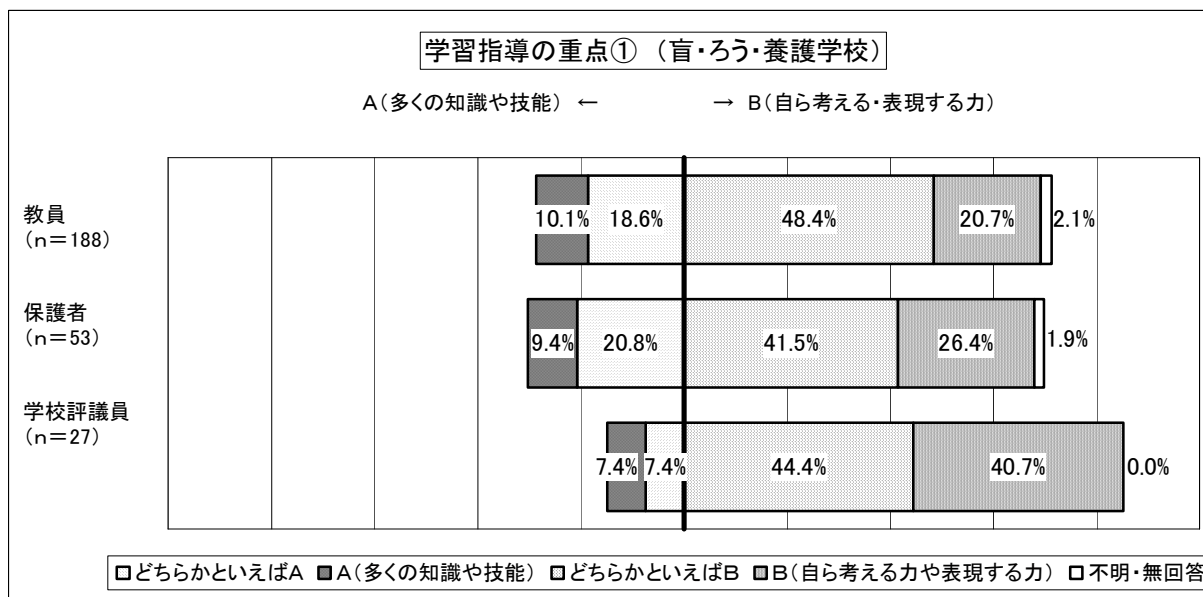
図IV-1-3



【盲・ろう・養護学校】

①について、教員、保護者、学校評議員に聞いたところでは、「Bである」「どちらかというB」（教員 69.1%、保護者 67.9%、学校評議員 85.1%）が三者共に高い割合となっている。（図IV-1-4参照）

図IV-1-4

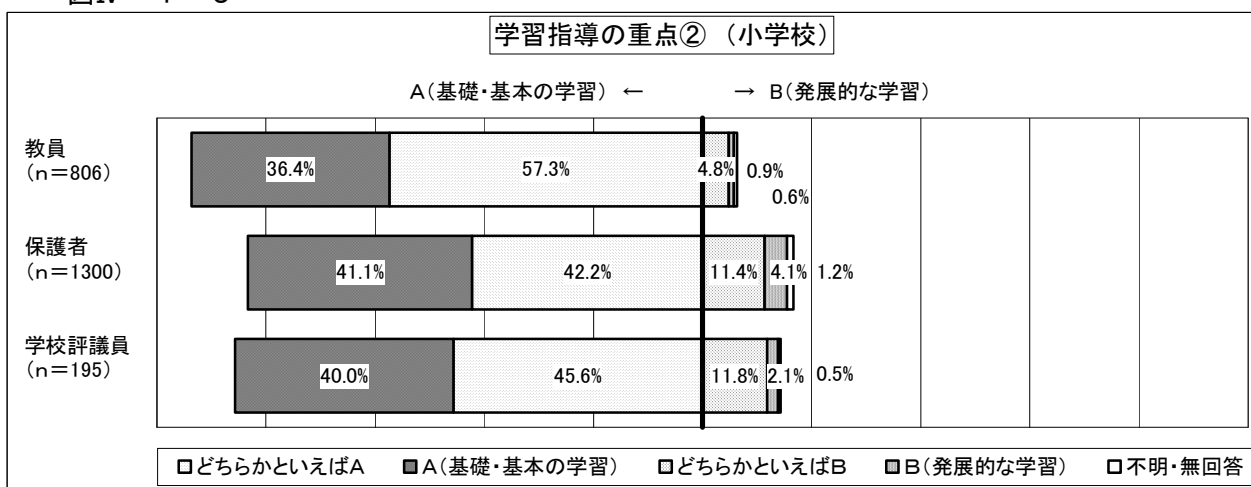


IV-1 学習指導の重点 ②「基礎・基本の学習」か「発展的な学習」か

【小学校】

教員、保護者、学校評議員に、A「多くの子どもが理解できるよう、基礎・基本の学習を行う」とB「能力の高い子どもがより伸びるよう、発展的な学習を行う」とのどちらかに学習指導の重点をおくかを聞いたところ、「Aである」「どちらかというともA」（教員 93.7%、保護者 83.3%、学校評議員 85.6%）が三者共に高い割合となっている。（図IV-1-5 参照）

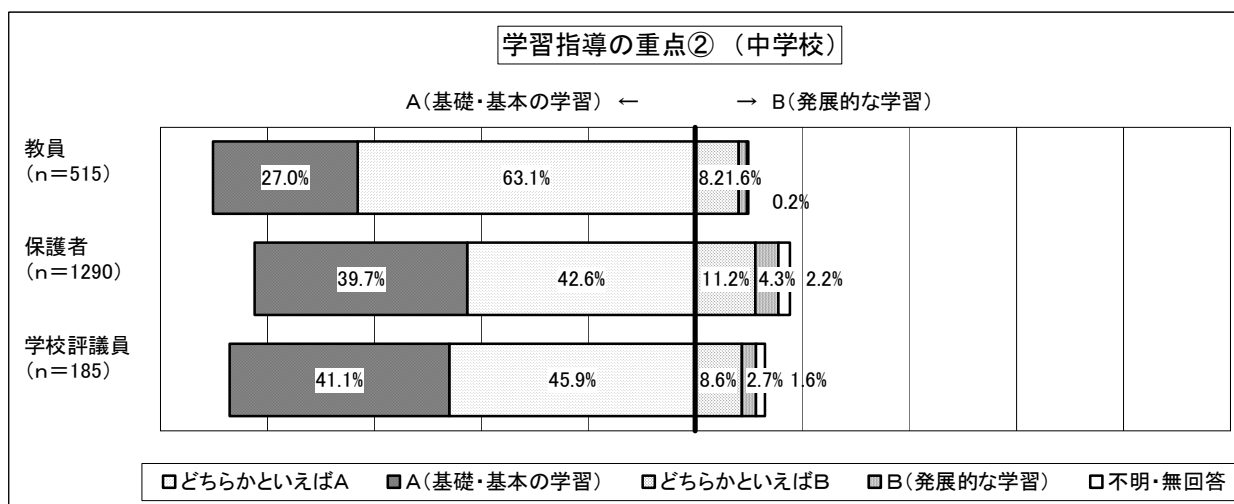
図IV-1-5



【中学校】

②について、教員、保護者、学校評議員に聞いたところでも、「Aである」「どちらかというともA」（教員 90.1%、保護者 82.3%、学校評議員 87.0%）が三者共に高い割合となっている。（図IV-1-6 参照）

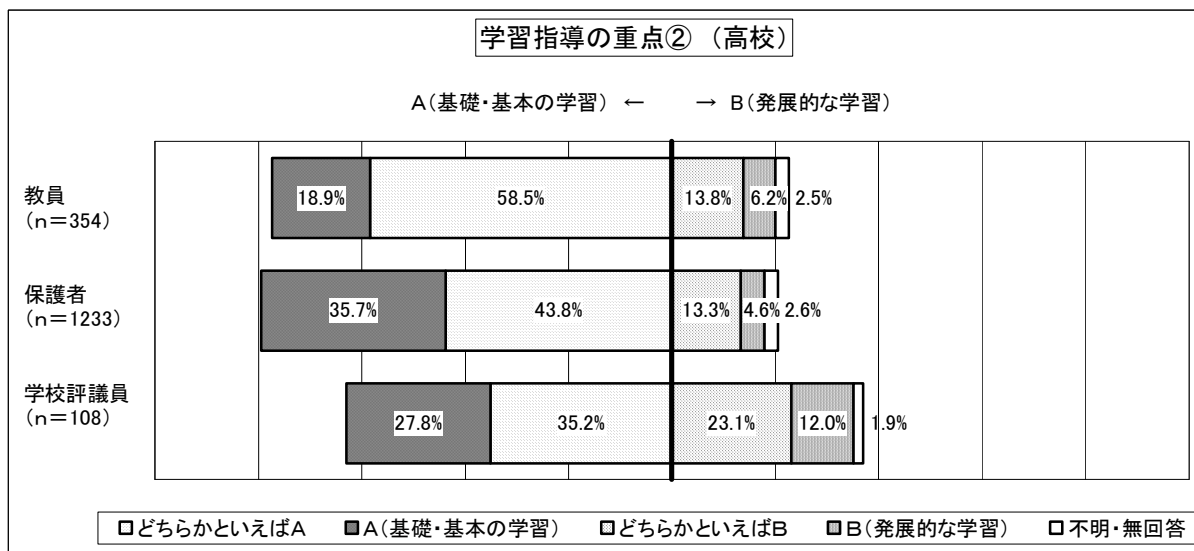
図IV-1-6



【高校】

②について、教員、保護者、学校評議員に聞いたところでも、「Aである」「どちらかというとA」（教員 77.4%、保護者 79.5%、学校評議員 63.0%）が三者共に高い割合となっている。（図IV-1-7参照）

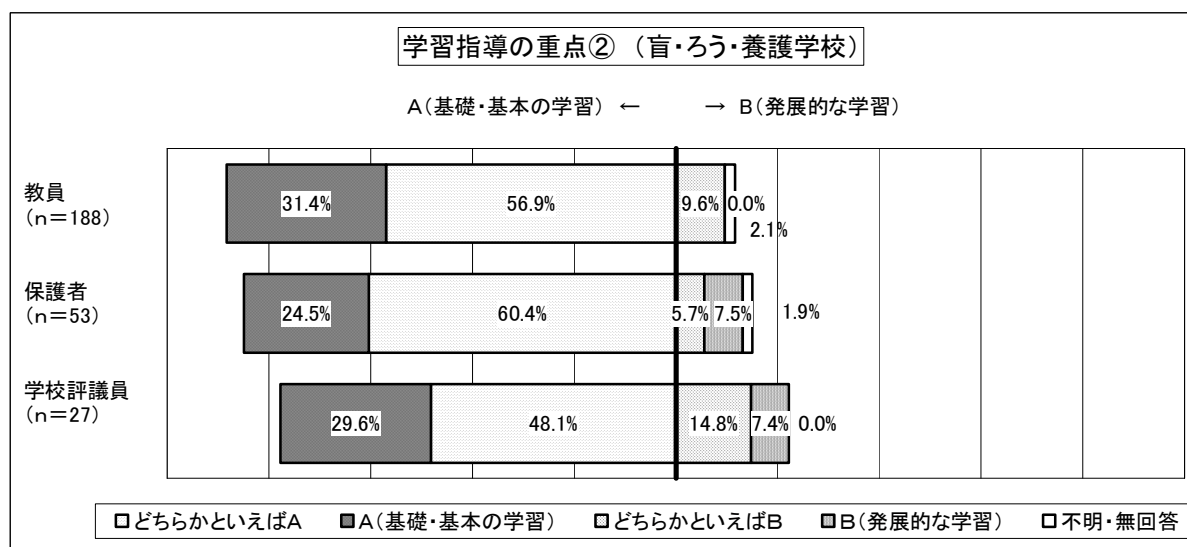
図IV-1-7



【盲・ろう・養護学校】

②について、教員、保護者、学校評議員に聞いたところでも、「Aである」「どちらかというとA」（教員 88.3%、保護者 84.9%、学校評議員 77.7%）が三者共に高い割合となっている。（図IV-1-8参照）

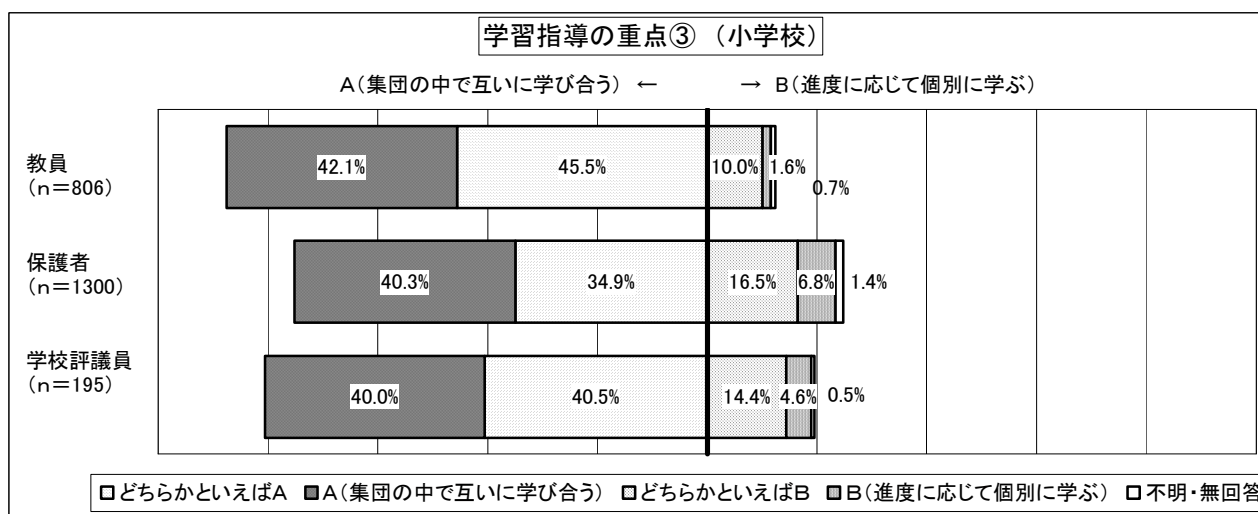
図IV-1-8



IV-1 学習指導の重点 ③「集団の中で学び合う」か「進度に応じて個別に学ぶ」か
【小学校】

教員、保護者、学校評議員に、A「子どもたちが集団の中で互いに学び合う」とB「それぞれの子どもが進度に応じて個別に学ぶ」とのどちらに学習指導の重点をおくかを聞いたところ、「Aである」「どちらかというともA」(教員 87.6%、保護者 75.2%、学校評議員 80.5%)が三者共に高い割合となっている。(図IV-1-9 参照)

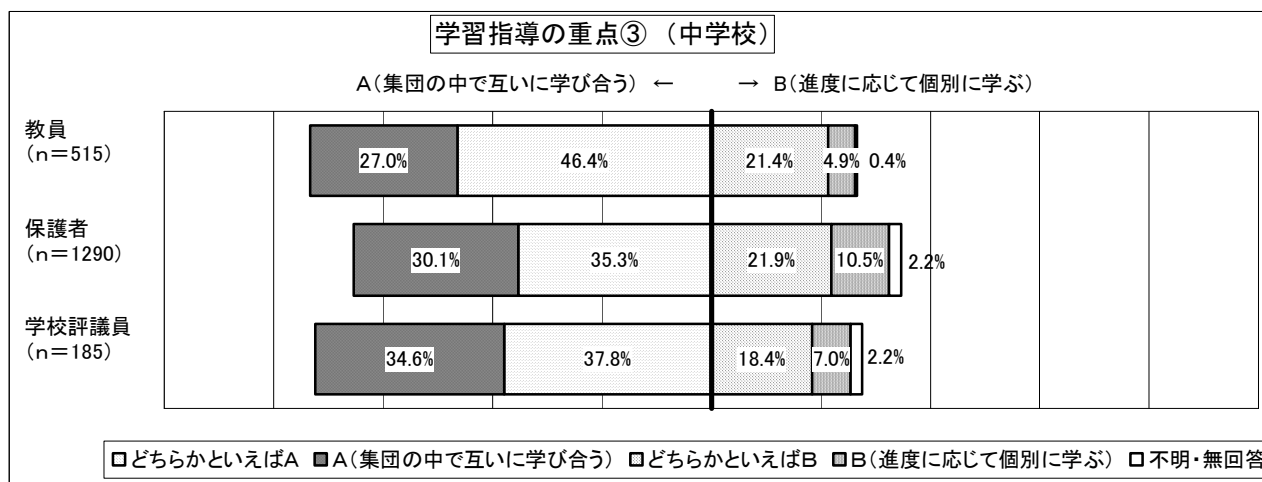
図IV-1-9



【中学校】

③について、教員、保護者、学校評議員に聞いたところでも、「Aである」「どちらかというともA」(教員 73.4%、保護者 65.4%、学校評議員 72.4%)が三者共に高い割合となっている。(図IV-1-10 参照)

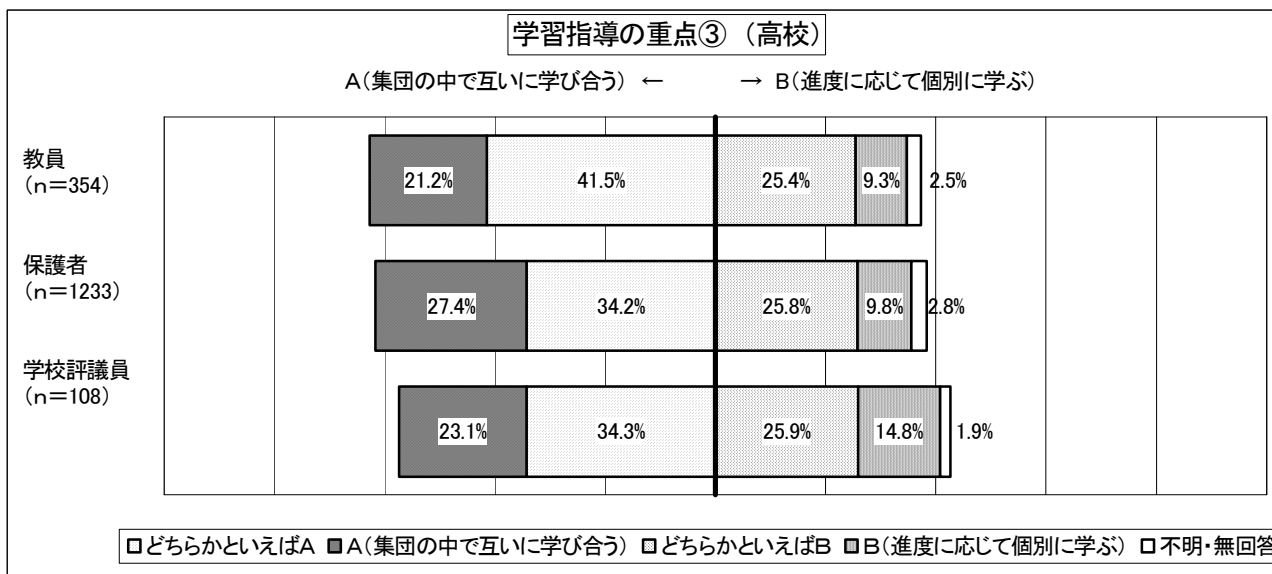
図IV-1-10



【高校】

③について、教員、保護者、学校評議員に聞いたところでも、「Aである」「どちらかというとA」（教員 62.7%、保護者 61.6%、学校評議員 57.4%）が三者共に高い割合となっている。（図IV-1-11 参照）

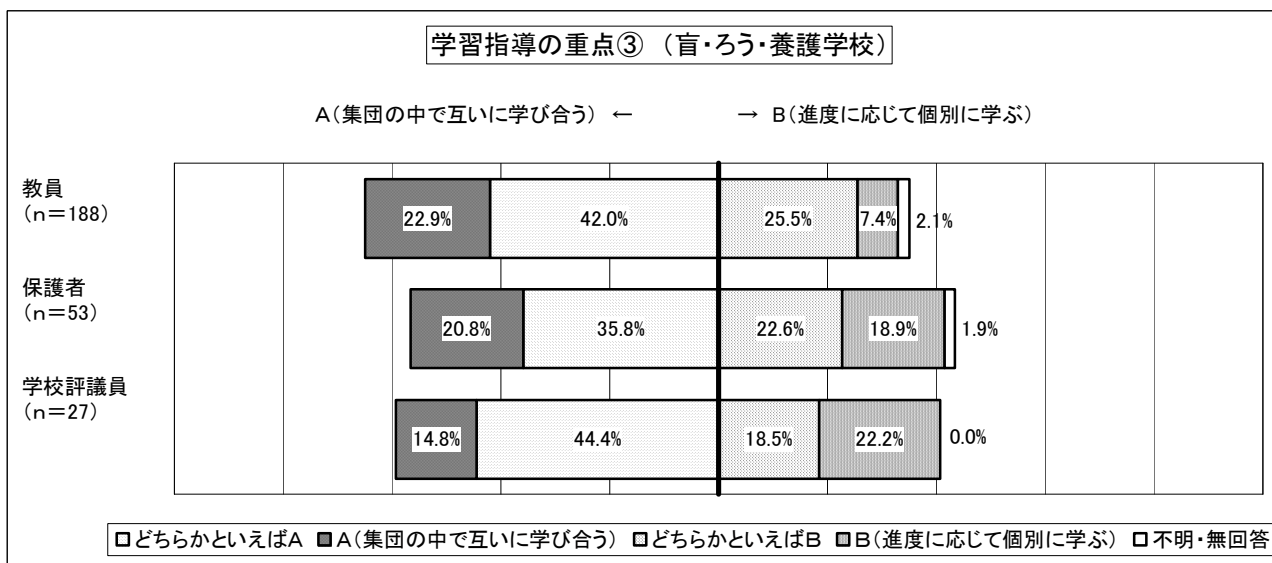
図IV-1-11



【盲・ろう・養護学校】

③について、教員、保護者、学校評議員に聞いたところでも、「Aである」「どちらかというとA」（教員 64.9%、保護者 56.6%、学校評議員 59.2%）が三者共に高い割合となっている。（図IV-1-12 参照）

図IV-1-12



IV-2 教科やその他の活動の重点

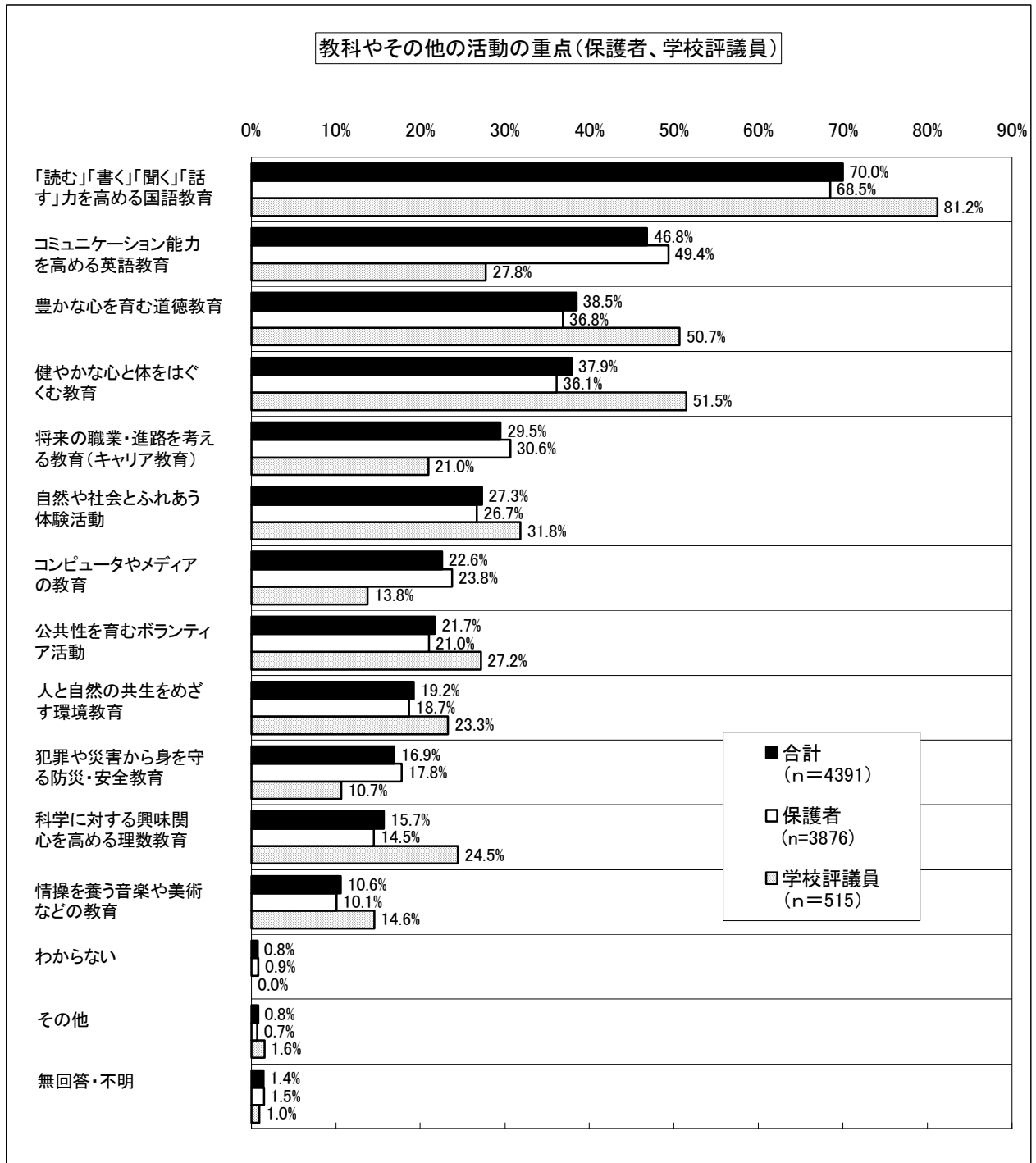
保護者と学校評議員に、今後、「学校でさらに力を入れてほしいと思う教育内容」について聞いたところ、全体の7割が「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」と回答しており、国語教育に対する関心の高さがうかがえる。

「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」（保護者 68.5%、学校評議員 81.2%）は、両者共に最も割合が高くなっており、特に学校評議員の 81.2%は他と比べて高い割合となっている。（表IV-2、図IV-2 参照）

表IV-2 教科やその他の活動の重点（上位5項目）

	保護者	学校評議員
1位	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 (68.5%)	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 (81.2%)
2位	コミュニケーション能力を高める英語教育 (49.4%)	健やかな心と体をはぐくむ教育 (51.5%)
3位	豊かな心を育む道徳教育 (36.8%)	豊かな心を育む道徳教育 (50.7%)
4位	健やかな心と体をはぐくむ教育 (36.1%)	自然や社会とふれあう体験活動 (31.8%)
5位	将来の職業・進路を考える教育（キャリア教育） (30.6%)	コミュニケーション能力を高める英語教育 (27.8%)

図IV-2



IV-3 勉強する理由

子どもに、「勉強する理由」を聞いたところ、小学生や盲・ろう・養護学校生の4割程度が「将来何かの役に立つと思うから」と回答しているのに対して、中高生では「進学したいから」と回答している割合が高く、小中高と学校段階が上がるにつれて、将来に対する漠然とした思いから、次第に自己の近い将来の進路を目標にしている傾向がうかがえる。

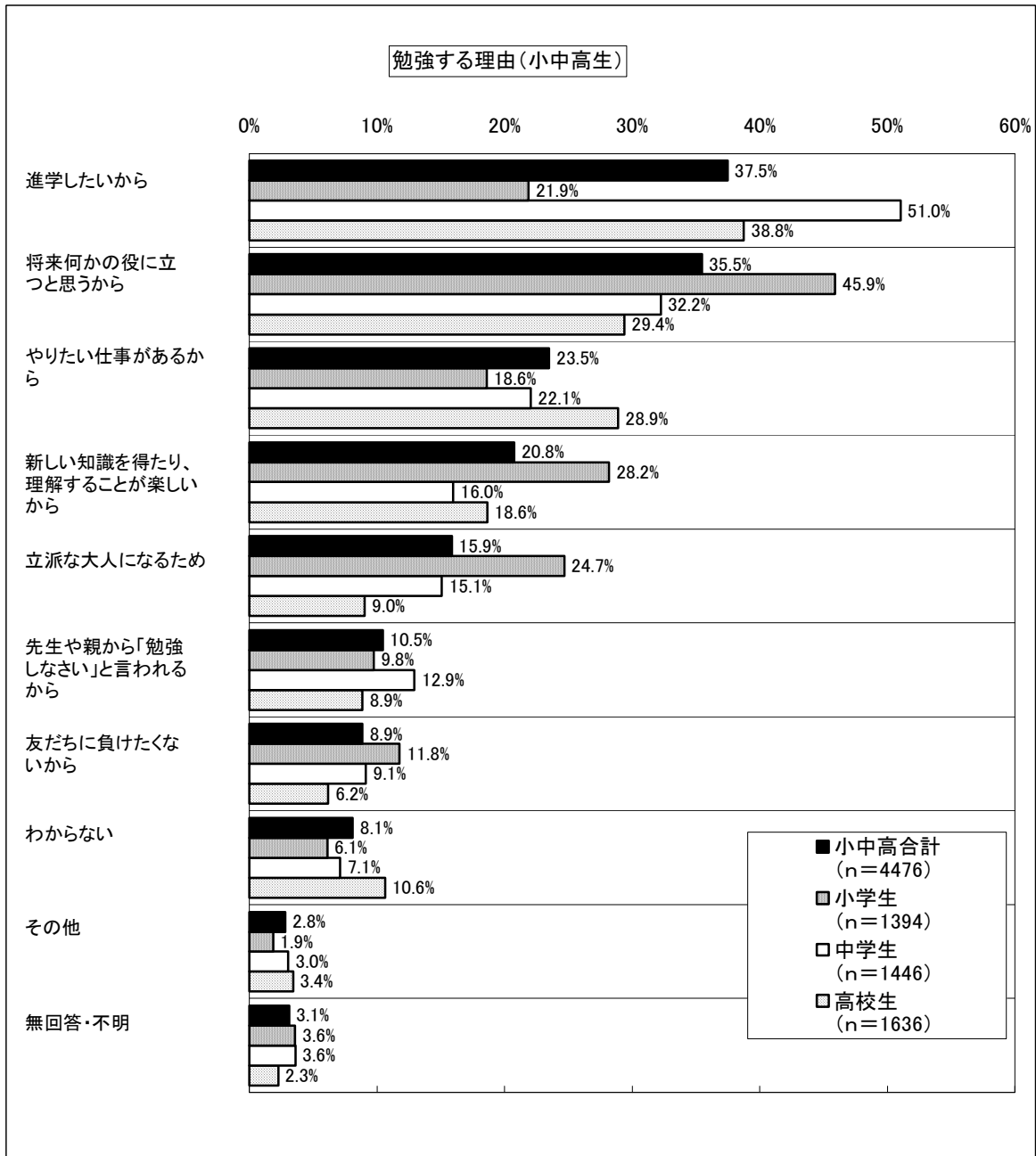
中高生で最も割合が高いのは「進学したいから」（中学生 51.0%、高校生 38.8%）で、小学生では「将来何かの役に立つと思うから」（45.9%）が最も高く、いずれも他の理由と比べて高い割合となっている。

次いで、小学生では「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」（28.2%）の割合が高い。中高生では「将来何かの役に立つと思うから」（中学生 32.2%、高校生 29.4%）、そして「やりたい仕事があるから」（中学生 22.1%、高校生 28.9%）の割合が高く、将来や進路に関する理由が上位を占めている。（表IV-3、図IV-3-1参照）

表IV-3 勉強する理由（上位5項目）

	小学生	中学生	高校生
1位	将来何かの役に立つと思うから (45.9%)	高校や大学などに進学したいから (51.0%)	進学したいから (38.8%)
2位	新しいことを知ったり、わかることが楽しいから (28.2%)	将来何かの役に立つと思うから (32.2%)	将来何かの役に立つと思うから (29.4%)
3位	立派な大人になるため (24.7%)	やりたい仕事があるから (22.1%)	やりたい仕事があるから (28.9%)
4位	高校や大学などに行きたいから (21.9%)	新しいことを知ったり、わかることが楽しいから (16.0%)	新しい知識を得たり、理解することが楽しいから (18.6%)
5位	やりたい仕事があるから (18.6%)	立派な大人になるため (15.1%)	わからない (10.6%)

図IV-3-1



盲・ろう・養護学校生では、最も割合が高いのは、「学校に学んだことが、将来役に立つと思うから」(38.5%)で、次いで「新しいことを知ることが楽しいから」(36.9%)、「やりたいことがあるから」(35.4%)の順となっている。(図IV-3-2参照)

図IV-3-2

